釋空満寺通信

平成二十四年十二月号

ぶつぶつ

発責者　田中　誠土

十二月の行事と案内

★ 注連縄の授与

ご予約を頂いています注連縄をお渡しいたします。また、予約がまだの方も対応できるように用意はしていますが、お早めにどうぞ。

★ 冬至・お焚き上げ修法（自由参加）

十二月二十一日(金)午前十時半～

本山に於いて、今年納められた写経紙・使用済み先祖供養椿の葉霊符等を、お焚き上げ致します。前日までにお納め頂ければお焚き上げ致します。

終了後、お接待の用意も御座います。

★ ふく餅つき会（参加者募集中）

十二月二十九日(土)午前八時～

仏様にお供えする鏡餅と雑煮用の餅を搗きます。お手伝いを募集しております。どなたでも参加頂けます。参加者には、雑煮用の餅をプレゼント致します。ふく(二九)を搗き込む餅つき会に参加下さい。午後一時頃には終了予定。

★ 除夜法会（自由参加）

十二月三十一日(月)午後十一時～

大晦日の夜、今年一年の感謝を込め、除夜の鐘(銅鑼)を叩きます。

終了後、年越しそばを食べて終了予定。

◎ 別院行事、十四日の龍王祭御水取法会と二十六日の先祖供養大祭は行います。

◎ 本山、二十九日の先祖供養大祭はありません。

★ 修正会（管長年始受け）

本山　一月二日受付午前八時～午前中

別院　一月三日受付午前八時～午前中

雑煮のお接待あります。

釋空満寺流正月の迎え方

ここに当山流のお正月の迎え方を紹介しましょう。これはあくまでも当山信者さんの、如何にお正月を迎えるべきかの質問に答える形で、紹介したものですので、必ずこのようにしなければならないと言うことではありません。

★注連縄・鏡餅の飾り方

▼注連縄・鏡餅は飾り付けの用意は大晦日の日に行います。除夜の鐘が鳴りだしたら(大体午後十一時過ぎ)に飾り付けを行います。

注連縄は玄関・勝手口などの出入口、便所・風呂・台所・外部水道・井戸など水神さんと自動車・コンロなどの荒神さんに飾ります。

水神さんは水に関係のある所です。荒神さんは火に関係のある所です。

▼また、喪中の家では玄関などの出入口の注連縄は飾りませんが、水神さん荒神さんは飾ってもかまいません。それと鏡餅は、仏様用だけは飾ってかまいません。神様の場所は飾らない。

▼鏡餅は、仏壇のある家は仏間に三段重ねの鏡餅を置きます。仏壇の無い家は、先祖様を迎えるのにふさわしい場所に置きます。

▼三宝の上に半紙を敷き、精米を敷きます。その上にウラジロの葉を置き、下段の餅を置きます。その餅の上にユズリ葉を二枚、ハの字の形に載せ、スルメと昆布を真ん中に載せます。その上に中段の餅を載せます。中段の餅の上に、干し柿のくし刺しを置きます。(干し柿は六個か十個で大きさによって変わる)その上に上段の餅を載せ、上段の餅の上に橙(ダイダイ)を載せて完成です。

その他の場所、便所・台所は二段重ねの鏡餅を飾ります。神様の場所は二段重ねです。三宝の上に精米とウラジロを敷きます。その上に二段の餅を置いてダイダイを載せて完了です。

これがお寺での鏡餅の飾り方です。この鏡餅の大きさが、下段の大きさが八寸ですが、これがかなりの数有るわけです。ですから、二十九日に餅つき会をしないと相当数の鏡餅を作ることが出来ないのです。お手伝い心よりお願い致します。

▼注連縄・鏡餅の用意が出来ましたら次の段階です。玄関を開け、玄関先に霊水と御塩を撒きます。仏壇に燈明を点け線香を立てます。そして先祖様に今年一年のお礼を述べます。

そして次の段階ですが、一度仏壇の燈明を消して、墓参りに出かけます。これは新年の挨拶のために行きます。その際に持参したお酒を、墓の穂石にかけ、酒を適当に残して持ち帰り、これを正月のお屠蘇に使います。御霊酒であれば、一層いいのですが…

墓参りに行けない場合(遠方にある。病気などの都合)は、玄関先からお墓のある方角に向かって合掌・礼拝で先祖様に挨拶する。

一度家に入り、仏壇の燈明を再点火してお参りします。その後、氏神さまにお参りに行きます。氏神さまでは、住所・氏名・生年月日を述べて、新年の挨拶をします。

そして帰宅後、年越しそばを食べます。これが、大晦日の行事ですので、結構忙しいのです。紅白歌合戦を最後まで見ている余裕は無いかも知れませんね。(笑)

▼注連縄・鏡餅は一週間で降ろしますが、地域の風習に従って下さい。

この様なやり方で新年を迎えますが、各家それぞれの家風や、地域それぞれの風習がお有でしょうから、それに従ってやられたらいいでしょう。以上が当山流の正月の迎え方です。

▼正月はご先祖様が里帰りされる時です。先祖様をお迎えして、共に食事をしお屠蘇を頂き、向後一年の家族の健康を祈る儀式でもあります。

★お陰様で…

先日信者さんとお話しておりまして、こんな話を聞きました。釋空満寺講の巡礼旅行に参加させて頂いて、この間満願しましたが、満願して初めて気が付いたことがあります。それは、ご利益を頂くと言うことに付いて、やっと気付かせて頂いたと言うことです。

それは、四国八十八カ所、西国三十三カ所、新西国三十三カ所と六年かけて巡礼させて頂いて判りました。初めの内は、霊場をお参りすれば、何らかのご利益を頂けるだろうと思って参加しました。

これだけ沢山の霊場をお参りしているのだから、ご利益もさぞあろう。などと思いながら巡礼に参加していました。しかし、これと言った特別のご利益があったと言うことはありませんでした。そんなことを思いながら四国八十八カ所の巡礼が終わり、次は西国三十三カ所観音霊場です。

観音霊場の方が、現世利益を説く仏様だからきっとご利益があるぞ。などと思いながら巡礼いたしました。しかしこちらも特別なご利益があった訳ではありません。

そして震災の影響もあって、半年ずれ込みましたが、この秋に新西国三十三カ所も巡礼し満願いたしました。そこでハタと気付いたことがありまして、目先のご利益、ご利益と思っていましたが、実はそのご利益を頂いていたことに気付きました。それは、この六年間元気に霊場巡礼をさせて頂いたことでした。

毎回参加させて頂くことは、お金も時間も掛かりますが、何より健康でなければ、多少足腰が痛くても、巡礼に出かけられる健康が無ければ無理なことです。

その健康を、霊場の仏様が陰で支えて下さっていたからこそ、この六年間お参りさせて頂いたのでして、これが一番のご利益でした。そんな話を聞かせて頂きました。

これが本当の「お陰様です」では無いでしょうか。**「欲にきりなし、地獄に底なし」**と言います。一つの望みが叶うと次の欲が出てきます。次から次へと欲には際限がありません。しかし、この欲も多少無いと、巡礼も満願出来ませんので、欲も多少必要でしょう。しかし大事なことは、「お陰様」の気持ちでは無いでしょうか。このお陰様の心があれば、欲にもブレーキを掛けることが出来ると思います。あとひと月、お陰様の気持ちを持って過ごしましょう。きっといい新年を迎えられます。

合掌